



こやの里なまり

(第6号)

令和8年9月1日(火)

兵庫県立こやの里特別支援学校

校長 只石和世

コミュニティ・スクールで広がる学びの可能性

教頭 中川 圭子

7月に、本年度第1回学校評議員会ならびに学校運営協議会を開催しました。今年度から本校においても学校運営協議会(コミュニティ・スクール)が設置され、本校の教育活動や今後のコミュニティ・スクールの方向性について協議を行いました。委員の皆様からは、児童生徒の学びや地域とのつながりをさらに豊かにするための多くのご意見やご提案をいただきました。

「育ちを実感できる学校づくり」は本校の教育活動の中心となる大切な視点であり、児童生徒が自分の成長を実感できることが主体的な学びにつながるとの助言をいただきました。また、子どもたちの成長を支える教職員自身も学び続けることが大切であるとのご意見もありました。

地域との連携では、防災士養成などを行う大学との連携や、防災学習への活用について提案がありました。防災学習や福祉避難所運営を想定した取組を通して、地域社会とつながっていく可能性が広がる内容でした。また、皆が一緒に楽しめる活動として、自治会活動として取り組まれているポッチャや、保護者によるモルック活動など、地域の方々と交流できるスポーツ活動の提案もありました。

そのほかにも、読み聞かせ活動への協力や卒業生・同窓会とのつながりづくり、地域会議での学校の取組紹介など、多くのアイデアが出されました。学校が地域に開かれることで、子どもたちの学びや経験の幅が広がり、地域全体で成長を見守る環境づくりにつながることを期待できると感じました。

一方で、地域との連携を進める際には、安全・安心の確保も欠かせません。学校としては防犯や安全管理にも十分配慮しながら、地域とのつながりを広げていきたいと考えています。

本校は開校47年目を迎え、施設の老朽化や活動場所の不足などの課題もあります。しかし、地域には豊かな人材や施設、経験があります。今後は農業体験、スポーツ交流、地域施設での学習、企業や事業所での職業体験、防災・福祉を通じた地域連携などを進めていくために、学校運営協議会が橋渡しの役割を担っていければと思います。

コミュニティ・スクールは、学校だけでなく、保護者や地域、関係機関が力を合わせて子どもたちの成長を支える取組です。地域には多くの知識や経験、人とのつながりがあります。子どもたちが地域の方々と出会い、多様な経験を重ねることは、将来の自立や社会参加につながる大切な学びとなります。

今回いただいた貴重なご意見やご提案を今後の教育活動に生かし、保護者の皆様や地域の皆様のお力をお借りしながら、「地域とともにある学校づくり」と「子どもたちを支える学校づくり」を進めてまいります。

